



学校だより

川越市立山田中学校

令和3年2月8日 発行

「磨」

校長 大澤由美子

一年の終わり、あるいは始まりに「その年を漢字一文字で表す」ことがあります。一年を振り返って、どのような年だったかを表現したり、一年の始まりに抱負や決意を表現したりするものです。それが、本校でも教室に掲示されていました。生徒達は一人一人、それぞれの思いや願いを込めて文字を決めたことでしょう。「健 決 楽 学 勉 努 全 頑 進 満 緊 戦 結 心 真 生 動 前 続 極 明 夢 充 志 備 人 盛 静」等、いろいろな文字が見られました。

さて、私の今年の一文字は「磨」です。(同じ文字を教室掲示でも発見しました。)
「玉磨かざれば光なし」・・・「磨けば光る 磨かなければ光らない」。年齢に関係なく、「成長」とか「大きくなる方向の変化」といった感覚を持ち続けたいと思っています。そして、今より少しでも光りたいと思います。「磨」には、「みがく とぐ つとめる はげむ する」等の意味があります。原石をこすって磨くことで、ピカピカ光る宝石になります。中から現れてくるものがあつたり、表面がより滑らかになったりと、輝きを増していきます。磨かなければ、くすんだ原石のままです。人も同じです。才能があっても、向上させようと励むことをしなければ光りません。自分にどのような才能があるのかを探りながら、磨いていくことが大切なのだと思います。

どんなに勉強ができなくても

どんなに喧嘩が弱くても

どこかに君の宝石があるはずだよ

その宝石を磨いて 魂をピカピカに磨いて魅せてよ

(ドラえもんの名言)

新型コロナウイルスで混沌としている今の状況は、「擦って磨く」時ということなのかもしれません。一つ一つ試練を乗り越え、次に進んでいくことも「磨く」ことなのだと思います。最後に、「磨」には「すりへる」という意味もあるようですが、すりへらずに光りたいものです。